

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-114094
(P2024-114094A)

(43)公開日 令和6年8月23日(2024.8.23)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 33/06 (2006.01)	B 6 5 D 33/06	3 E 0 6 4
B 6 5 D 33/02 (2006.01)	B 6 5 D 33/02	
B 6 5 D 33/38 (2006.01)	B 6 5 D 33/38	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全12頁)			
(21)出願番号	特願2023-19513(P2023-19513)	(71)出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番 10号
(22)出願日	令和5年2月10日(2023.2.10)	(74)代理人	110000224 弁理士法人田治米国際特許事務所
		(72)発明者	千葉 龍太 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式 会社研究所内
		Fターム (参考)	3E064 AB23 BA17 BA26 BA30 BA55 BB03 BC08 EA12 FA03 HF01 HG01 HG03 HJ10 HK10 HM01 HN65 HS04

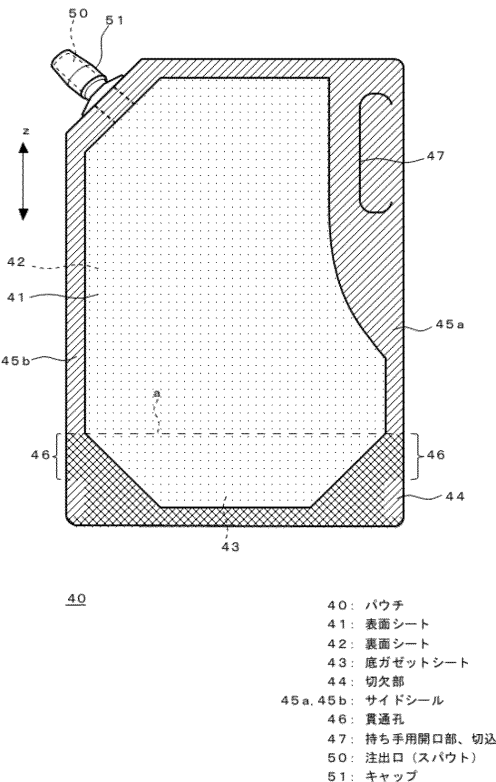
(54)【発明の名称】 ホルダー

(57)【要約】

【課題】汎用的な注出口付パウチに取り付けることができ、把持し易く、内容物を意図した注出先に安定して注出することを可能とするホルダーを提供する。

【解決手段】サイドシール45a、45b内に持ち手用開口部47を有する注出口50付パウチ40のホルダー1Aが、該パウチ40の注出口50に係止される注出口保持部2、該パウチ40の底部に係止される底部保持部20、注出口保持部2と底部保持部20の間にあって持ち手用開口部47に挿入される把持部10、注出口保持部2と把持部10とを繋ぐ上部支柱31、及び把持部10と底部保持部20を繋ぐ側部支柱32を有する。把持部10の横断面は優弧形の筒状形状を有する。

【選択図】 図9A



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

サイドシール内に持ち手用開口部を有する注出口付パウチのホルダーであって、
該パウチの注出口に係止される注出口保持部、
該パウチの底部に係止される底部保持部、
注出口保持部と底部保持部の間にあって持ち手用開口部に挿入される把持部、
注出口保持部と把持部とを繋ぐ上部支柱、及び
把持部と底部保持部を繋ぐ側部支柱を有し、
把持部が、横断面が優弧形の筒状形状を有する、ホルダー。

【請求項 2】

把持部の外形の直径が 20 ～ 60 mm である請求項 1 記載のホルダー。

【請求項 3】

把持部の外形が円柱状又は楕円柱状である請求項 1 又は 2 記載のホルダー。

【請求項 4】

上部支柱及び側部支柱の少なくとも一方が屈曲ないし湾曲している請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のホルダー。

【請求項 5】

一体成形物である請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のホルダー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は注出口付パウチのホルダーに関する。

【背景技術】

【0002】

重ね合わせたフィルムの周縁部がシールされて袋状となり、スパウト等の注出口が設けられている注出口付パウチが知られている。パウチは、洗濯洗剤、柔軟剤、漂白剤などの詰め替え容器としても使用されており、近年、容量を本容器の 2 ～ 3 倍にするという大容量化が進んでいる。大容量化は消費者にお得感をもたらす反面、本容器への内容物の詰め替え時にパウチの把持が不安定になり、内容物を本来の注出先から外してしまう虞をもたらす。

【0003】

パウチを持ち易くする技術としては、パウチのサイドシール内に穴又は切込により持ち手用開口部を設けることが知られている（特許文献 1、特許文献 2）。しかしながら、パウチに持ち手用開口部を設けるだけでは、内容物の注出時にパウチの注出口の位置や傾ける方向が不安定となり、内容物の注出先も不安定となる。

【0004】

これに対し、概ねパウチの側辺と上辺に沿う支柱からなり、パウチの注出口と底部に係止できるようにしたホルダー（特許文献 3）や、パウチの注出口と底部に係止すると共にパウチの独立充填室を挟持するようにしたホルダーがある（特許文献 4）。これらのホルダーによれば、注出時に注出口の位置の不安定さが減る。しかしながら、これらのホルダーでは支柱が把持部を兼ねたり、把持部が細径の棒状で形成されたりしているため、把持部が握りにくい。さらに、特許文献 4 のホルダーは、独立充填室を有するという特殊なパウチにしか適用することができない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】 実開平 3 - 69642 号公報

【特許文献 2】 特開 2015 - 134626 号公報

【特許文献 3】 実登 3080159 号公報

【特許文献 4】 特許 6379613 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明の課題は、汎用的な注出口付パウチに取り付けることができるホルダーであって、把持し易く、意図した注出先に安定して注出することができ、該パウチが詰替容器である場合には、ホルダーを取り付けた該パウチから本容器への内容物の詰め替えが容易になるものに関する。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明者は、注出口付パウチがサイドシール内に持ち手用開口部を有する場合に、横断面が優弧形の筒状形状の把持部を持ち手用開口部に挿入できるようにすると、簡便な構成で把持部を握り易い径に形成することができ、ホルダーを取り付けた注出口付パウチから意図した注出先に安定して内容物を注出できることを見出し、本発明を完成させた。

【0008】

即ち、本発明は、サイドシール内に持ち手用開口部を有する注出口付パウチのホルダーであって、

該パウチの注出口に係止される注出口保持部、

該パウチの底部に係止される底部保持部、

注出口保持部と底部保持部の間にあって持ち手用開口部に挿入される把持部、

注出口保持部と把持部とを繋ぐ上部支柱、及び

把持部と底部保持部を繋ぐ側部支柱を有し、

把持部が、横断面が優弧形の筒状形状を有する、ホルダーを提供する。

【発明の効果】

【0009】

本発明のホルダーは、サイドシール内に持ち手用開口部を有する注出口付パウチに取り付けることができる。この持ち手用開口部を有する注出口付パウチは汎用的なパウチの一つである。

【0010】

本発明のホルダーの把持部は筒状形状で握り易く、把持部をより握りやすい径や滑りにくい表面に形成することもできる。また、このホルダーはパウチを注出口と持ち手用開口部と底部との3点で支持するのでホルダーによるパウチの支持状態が安定する。したがって、このホルダーを注出口付パウチに取り付けると、把持部を容易にしっかりと握ることができ、把持部を握っている片手だけの操作で注出口を意図した位置にふらつかずに留めることができる。よって、パウチの大容量化により内容物を含むパウチ重量が好ましくは1kg～5kg、より好ましくは1.5kg～4kgと重くなっても、片手だけの操作で内容物を意図した注出先に安定して注出させることができる。これにより、注出口付パウチが詰替容器である場合には、詰替容器から本容器への内容物の詰め替えが容易となり、詰替時に内容物がこぼれることを低減ないし解消することができる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1A】図1Aは、実施例のホルダー1Aの斜視図である。

【図1B】図1Bは、実施例のホルダー1Aの把持部の横断面図（A-A図）である。

【図1C】図1Cは、実施例のホルダー1Aの注出口保持部の側面図である。

【図2A】図2Aは、把持部の変形態様10Bを自由端側から見た斜視図である。

【図2B】図2Bは、把持部の変形態様10Bを自由端と反対側から見た斜視図である。

【図3A】図3Aは、把持部の変形態様10Cを自由端側から見た斜視図である。

【図3B】図3Bは、把持部の変形態様10Cを自由端と反対側から見た斜視図である。

【図4】図4は、実施例のホルダー1Bの斜視図である。

【図5】図5は、注出口保持部の変形態様の斜視図である。

【図6】図6は、実施例のホルダー1Cの斜視図である。

【図 7】図 7 は、実施例のホルダー 1 D の斜視図である。

【図 8】図 8 は、実施例のホルダー 1 E をヒンジで折り畳んだ状態の斜視図である。

【図 9 A】図 9 A は、注出口付パウチの平面図である。

【図 9 B】図 9 B は、持ち手用開口部が開口途中の注出口付パウチの平面図である。

【図 10】図 10 は、実施例のホルダー 1 A を注出口付パウチに取り付けた状態の斜視図である。

【図 11】図 11 は、実施例のホルダー 1 A を取り付けた注出口付パウチから内容物を注出しているときの斜視図である。

【図 12】図 12 は、注出口付パウチに取り付けた状態の実施例のホルダー 1 C の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0012】

以下、本発明を、図面を参照しつつ詳細に説明する。なお、各図中、同一符号は同一又は同等の構成要素を表している。

【0013】

(注出口付パウチ)

本発明のホルダーは、例えば、図 9 A に示すような注出口付パウチ（以下、単にパウチともいう）40 に取り付けられる。このパウチ 40 は、特許文献 2 等に記載されている一般的な船底形のスタンディングパウチであり、表面シート 41 と、裏面シート 42 と、表面シート 41 と裏面シート 42 との間で二つ折りになっている底ガゼットシート 43 とがヒートシールされたものである。図中、破線 a は底ガゼットシート 43 の折り山の位置を表している。

【0014】

パウチ 40 の上部の隅部には、注出口となるスパウト 50 が、キャップ 51 を被せられた状態でシールされている。なお、本発明のホルダーを取り付けるパウチにおいて、スパウト 50 の位置はパウチの上部の隅部に限られず、特許文献 3 に記載されているように、パウチの幅方向の中央部であっても良い。また、本発明のホルダーを取り付けるパウチの注出口は、ホルダーの注出口保持部を係止できればよく、スパウトに限られない。例えば、特開 2013-133144 号公報に記載されているように表裏のフィルムから形成した注出口や、特開 2014-012546 号公報に記載されているように樹脂の金型成形により形成した注出口等でもよい。

【0015】

図 9 A において、斜めハッチング領域は表面シート 41 と裏面シート 42 とのシール領域、又は表面シート 41 若しくは裏面シート 42 とスパウト 50 とのシール領域を表し、格子ハッチング領域は表面シート 41 若しくは裏面シート 42 と底ガゼットシート 43 とのシール領域を表している。底ガゼットシート 43 の両側部には切欠部 44 が形成され、切欠部 44 で表面シート 41 と裏面シート 42 とがヒートシールされている。この切欠部 44 でのシールにより底ガゼットが平らには開かず、パウチ 40 がスタンディング状態を維持することが可能となっている。またこの切欠部 44 の上側に隣接した部分には、パウチ 40 の外面の底面と側辺とを連通させる貫通孔 46 が形成されることとなる。

【0016】

スパウト 50 と反対側のパウチ 40 のサイドシール 45 a は幅広に形成され、そのサイドシール 45 a 内の上部に持ち手用開口部として切込 47 が形成されている。図 9 B に示すように切込 47 で囲まれた部分はめくり上げることができ、そこに形成された開口部に手を挿入することが可能となる。

【0017】

なお、本発明のホルダーを取り付けるパウチの持ち手用開口部は、上述の切込 47 に代えて特許文献 1 に記載のような穴であってもよい。また、持ち手用開口部は、パウチの上辺シール内や肩部のシール内に形成されていてもよい。

【0018】

10

20

30

40

50

パウチ４０を構成する各シート４１、４２、４３は、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、ポリエチレン等の樹脂層の積層体や、さらにアルミニウム層を含む積層体から形成される。

【００１９】

（ホルダーの全体構造）

図１Ａは、本発明の一実施例のホルダー１Ａの斜視図である。

ホルダー１Ａは、概略、図９Ａに示したパウチ４０のスパウト５０に係止される注出口保持部２、パウチ４０の底部に係止される鉤形状の底部保持部２０、注出口保持部２と底部保持部２０の間に形成されており、持ち手用開口部（切込４７）に挿入される把持部１０、注出口保持部２と把持部１０とを繋ぐ上部支柱３１、及び把持部１０と底部保持部２０を繋ぐ側部支柱３２を有する。

10

【００２０】

このホルダー１Ａは、図９Ａに示したパウチ４０に対し、図１０に示すように底部保持部２０が底ガゼットの折り込み部に挿入され、把持部１０が持ち手用開口部（切込４７）に挿入され、注出口保持部２がスパウト５０に係止されることで取り付けられる。このホルダー１Ａによれば、パウチ４０の注出口と持ち手用開口部と底部の３点が支持されるのでパウチの支持状態が安定し、かつ持ち手用開口部が把持部１０により握りやすくなり、好ましくは把持部１０の表面を表面凹凸の形成等により滑りにくくすることができる。そのため、パウチの大容量化により内容物を含むパウチ重量が例えば１～５ｋｇ、好ましくは１．５～４ｋｇとなっても、図１１に示すように把持部１０を片手で握ってパウチ４０を傾けることにより意図する注出先に対してパウチ４０の注出口をふらつかずに固定し、内容物Ｍを注出することが容易となる。あるいは、一方の手で把持部１０を握ってパウチ４０を支え、他方の手で注出口保持部２を注出先に対して固定したり、他方の手で注出先を把持したりすることも容易となる。したがって、パウチ４０が詰替容器である場合には、本容器６０に内容物Ｍをこぼさず詰め替えることが容易となる。なお、本発明のホルダーを取り付けるパウチは詰替容器に限られない。パウチが本容器である場合には、計量カップなどの所定の注出先へ意図した量を注出することが容易となる。

20

【００２１】

ホルダー１Ａは、ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）、ポリプロピレン（ＰＰ）、ＡＢＳ等の熱可塑性樹脂を用いてインジェクション成型等により剛性を有する成形体に一体成形される。ＰＥＴとしては、リサイクルＰＥＴを使用してもよい。なお、本発明においてホルダーは一体成形品に限られない。

30

【００２２】

（把持部）

本実施例のホルダー１Ａの把持部１０は外形が楕円柱状であるが、図１Ｂに示すように、横断面（Ａ－Ａ断面）は優弧形であり、把持部１０は全体として側面にスリット１１が入った筒状形状となっている。把持部１０において、スリット１１に隣接した両側縁部１２ａ、１２ｂのうちの一方の側縁部１２ａは側部支柱３２に繋がっており、他方の側縁部１２ｂは自由端となっている。これにより、自由端になっている側縁部１２ｂから把持部１０をパウチ４０の持ち手用開口部４７に挿入し、把持部１０を持ち手用開口部４７に係止させることが可能となる。

40

【００２３】

本発明において把持部１０は手で握りやすい形状であればよく、その外形は楕円柱状の他、円柱状、角柱状等とすることができる。

【００２４】

把持部１０を握り易い太さとする点から、把持部１０の外形の直径（長径Ｌ１ａ，短径Ｌ１ｂ）は上部支柱３１、側部支柱３２の直径より太くすることが好ましく、２０～６０ｍｍとすることが好ましい。

【００２５】

把持部１０を握ったときに滑り難くするために把持部１０の外表面に表面凹凸を設けて

50

も良い。例えば、図 2 A、図 2 B に示す把持部 10 B のように筒状形状の周面方向に伸びた複数本の横リブ 13 を形成してもよく、図 3 A、図 3 B に示す把持部 10 C のように格子状のリブ 14 を形成してもよい。また、把持部 10 のグリップ感を向上させるため、把持部 10 の表面にポリウレタン等の弾性層を設けても良い。

【0026】

優弧形の横断面の内側形状は、本実施例では円弧となっており、その直径（即ち、把持部 10 の内径 L_2 ）は、パウチ 40 の持ち手用開口部 47 と側縁との距離等に応じて定められる。把持部 10 の厚さ d は 5 ~ 20 mm であり、持ち手用開口部 47 への把持部 10 挿入を容易にし、かつ把持部 10 に適度な剛性を与える点から側部支柱 32 寄りを、自由端寄りよりも厚くすることが好ましい。

10

【0027】

円弧の中心角 α は、持ち手用開口部 47 における把持部 10 の係止状態を安定させるため、 200° 以上とすることが好ましい。

【0028】

なお、本発明において優弧形の横断面の内側形状は、円弧に限られず、楕円弧、多角形等でもよい。

【0029】

筒状形状の軸 Q 方向の把持部 10 の長さ L_3 （図 1 A）は、パウチ 40 の持ち手用開口部 47 の長さ未満とする。把持部 10 を手で握りやすくする点からは 80 ~ 150 mm とすることが好ましい。

20

【0030】

本発明において、側部支柱 32 における把持部 10 の形成位置は、パウチ 40 における持ち手用開口部 47 の形成位置に応じて定めることができ、本実施例のホルダー 1 A では、側部支柱 32 の上端部に把持部 10 が形成されている。この他、ホルダーを取り付ける当該パウチにおける持ち手用開口部の形成位置に応じて、例えば図 4 に示すホルダー 1 B のように、側部支柱 32 の上下方向の中央部に把持部 10 を設けても良い。また、持ち手用開口部がパウチの上下方向に対して斜めに形成されている場合に、図 5 に示すホルダー 1 C のように把持部 10 の円筒形状の軸 Q が側部支柱 32 に対して傾くように把持部 10 を設けても良い。なお、ホルダーをパウチ 40 に取り付け、把持部 10 を把持したときに重心のバランスを取り易くし、把持したパウチの注出操作を容易にする点からは、図 4 に示したように把持部 10 を側部支柱 32 の上下方向の中央部に設けることが好ましい。

30

【0031】

また、本発明においてホルダーを一体成形せず、把持部 10 を側部支柱 32 と別パーツとし、把持部 10 が側部支柱 32 をスライドできるようにしてもよい。

【0032】

（注出口保持部）

実施例のホルダー 1 A において注出口保持部 2 は C 字リング形状をしており、スパウト 50 に緩く外嵌する。C 字リング形状の開口面は上部支柱 31 に対して傾斜している。この傾斜角 β （図 1 C）は、パウチ 40 の上下方向（z）に対するスパウト 50 の突出方向に応じて定められる。

40

【0033】

ホルダー 1 A に注出口保持部 2 が設けられていることにより、パウチ 40 にホルダー 1 A を取り付けると、スパウト 50 がパウチ 40 の柔軟なシート材料に取り付けられているにもかかわらず、把持部 10 に対するスパウト 50 の位置が固定されるので、図 11 に示すように把持部 10 を握ってパウチ 40 を傾ける片手だけの作業で本容器 60 等の意図した注出先に安定して内容物 M を注出させることが容易となる。

【0034】

本発明において、注出口保持部 2 の形状はこれに限られず、例えば、図 5 に示したように環状としてもよく、特許文献 4 に記載されているようにスパウト 50 を一對の保持部材で挟むようにしてもよい。

50

【0035】

(底部保持部)

実施例のホルダー1Aにおいて底部保持部20はその先端部21がL字に屈曲した鉤形状に形成され、屈曲角 γ は鋭角となっている(図1A)。図10に示すように、底部保持部20の先端部21はパウチ40の底辺48から底ガゼットの折り込みの間に深く挿入される。これにより、底部保持部20をパウチ40の底部に簡便に取り付けることができ、かつ、図11に示すように把持部10を握ってパウチ40を傾けてもホルダー1Aの底部保持部20がパウチ40の底部から外れることを防止できる。

【0036】

本発明において底部保持部20の形状はこれに限られず、例えば、図7に示すホルダー1DのようにL字の鉤形状の先端部21の端部22をさらに屈曲させ、図12に示すように底部保持部20の端部22がパウチ40の貫通孔46を貫通し、パウチ40のサイドシール45aに引っ掛かるようにしてもよい。

なお、このホルダー1Dは、底部保持部20の先端部21の端部22が屈曲している以外は図1Aに示したホルダー1Aと同様に構成されている。

【0037】

(支柱)

本実施例のホルダー1Aにおいて、上部支柱31と側部支柱32はそれぞれ丸棒状であり、L字形に連続している。これらの直径は5~20mmとすることが好ましい。なお本発明において、上部支柱31や側部支柱32は丸棒状に限られず、その横断面は楕円状でも多角形でもよい。

【0038】

ホルダー1Aをパウチ40に取り付けた状態で上部支柱31と側部支柱32がパウチ40と干渉しないように、上部支柱31と側部支柱32は、それぞれ屈曲ないし湾曲していることが好ましい。例えば、図1Aに示したホルダー1Aでは上部支柱31をパウチの厚さ方向(y)に湾曲させ、側部支柱32の下部をパウチの船底に沿うように湾曲させている。図6に示したホルダー1Cのように、把持部10の筒状形状の軸Qをパウチの上下方向(z)に対して傾かせ、側部支柱32の全体をパウチの幅方向(x)に対して湾曲させてもよい。

【0039】

また、本発明においては図8に示すホルダー1Eのように、上部支柱31と側部支柱32をリビングヒンジ等のヒンジ33を介して連続させてもよい。これにより、ホルダー1Eを使用していないときにはコンパクトに畳んでおくことが可能となる。

【0040】

この他、本発明のホルダーでは、上述した変形態様を適宜組み合わせることができる。

【符号の説明】

【0041】

1A、1B、1C、1D、1E ホルダー

2 注出口保持部

10、10B、10C 把持部

11 スリット

12a、12b 把持部の側縁部

13 横リブ

14 格子リブ

20 底部保持部

21 先端部

22 先端部の端部

31 上部支柱

32 側部支柱

33 ヒンジ

10

20

30

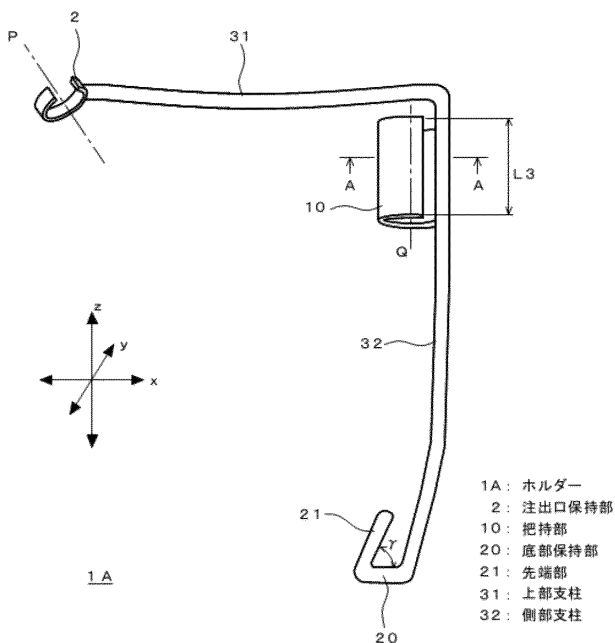
40

50

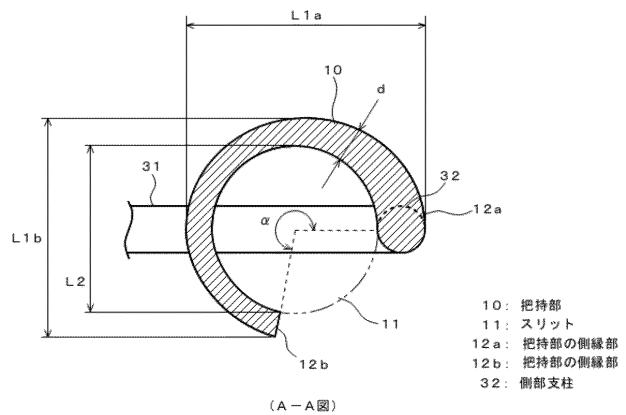
- 4 0 注出口付パウチ
 4 1 表面シート
 4 2 裏面シート
 4 3 底ガゼットシート
 4 4 底ガゼットシートの切欠部
 4 5 a、4 5 b サイドシール
 4 6 貫通孔
 4 7 切込、持ち手用開口部
 4 8 底辺
 5 0 スパウト、注出口
 5 1 キャップ
 6 0 本容器
 a 底ガゼットシートの折り山の位置
 d 把持部の厚さ
 L 1 a 外径の長径
 L 1 b 外径の短径
 L 2 内径
 L 3 長さ
 M 内容物
 α 優弧形の外形の中心角
 β 注出口保持部の開口面の傾斜角
 γ 屈曲角

【図面】

【図 1 A】



【図 1 B】



10

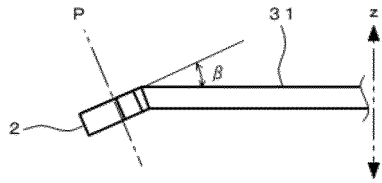
20

30

40

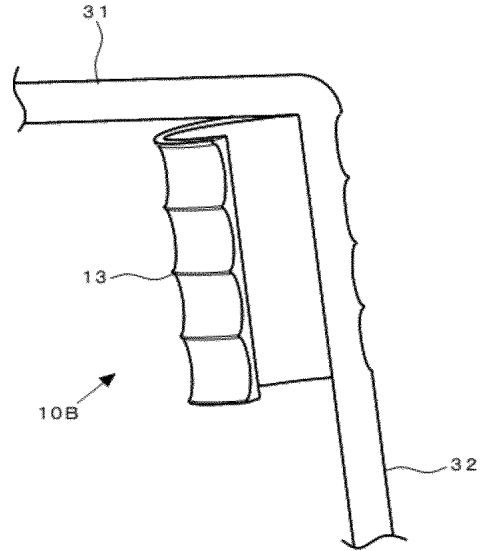
50

【図 1 C】



2: 注出口保持部
31: 上部支柱

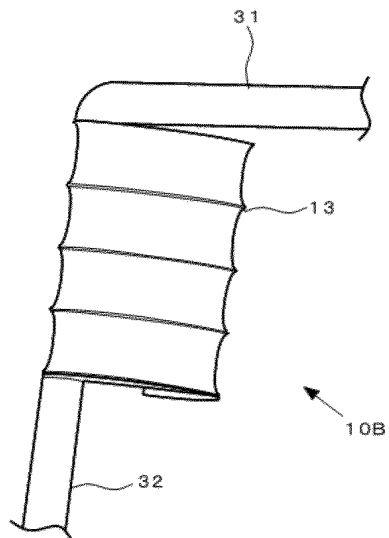
【図 2 A】



10B: 把持部
13: 横リブ
31: 上部支柱
32: 側部支柱

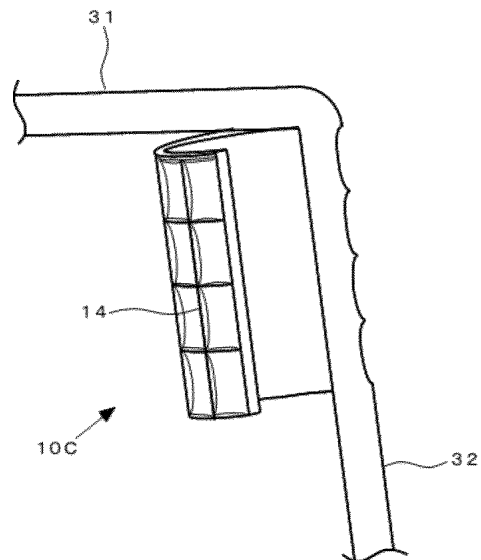
10

【図 2 B】



10B: 把持部
13: 横リブ
31: 上部支柱
32: 側部支柱

【図 3 A】



10C: 把持部
14: 格子リブ
31: 上部支柱
32: 側部支柱

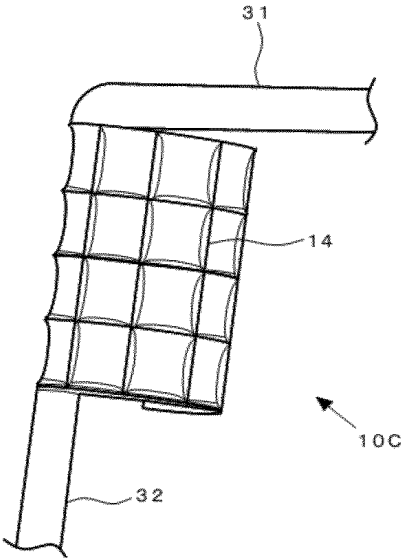
20

30

40

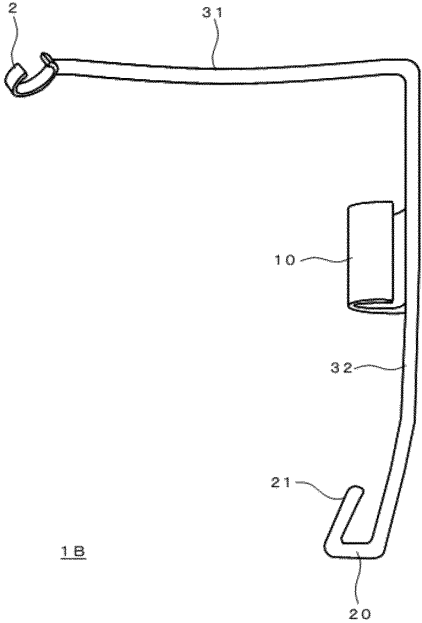
50

【図 3 B】



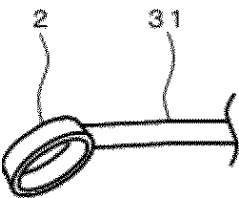
- 10C: 把持部
14: 格子リブ
31: 上部支柱
32: 側部支柱

【図 4】

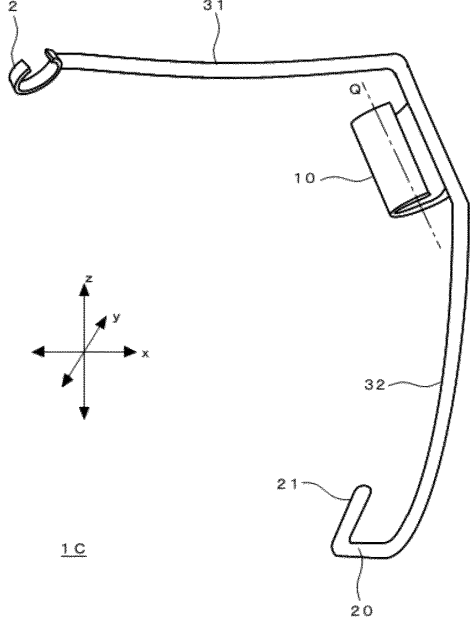


- 1B: ホルダー
2: 注出口保持部
10: 把持部
20: 底部保持部
21: 先端部
31: 上部支柱
32: 側部支柱

【図 5】



【図 6】



- 1C: ホルダー
2: 注出口保持部
10: 把持部
20: 底部保持部
21: 先端部
31: 上部支柱
32: 側部支柱

10

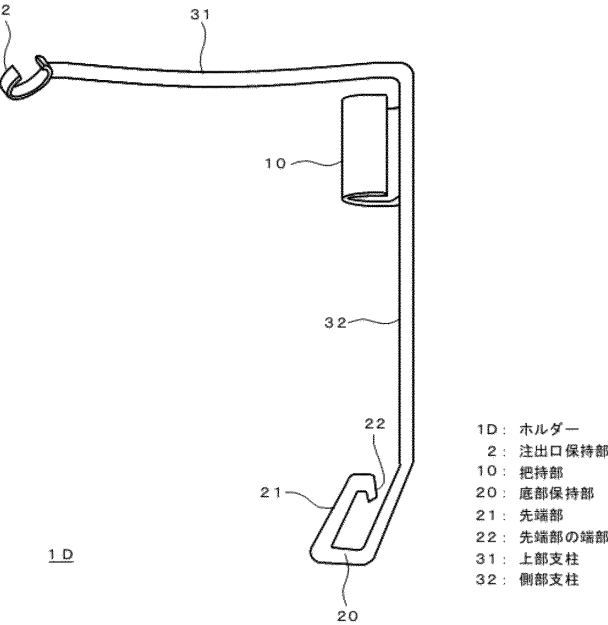
20

30

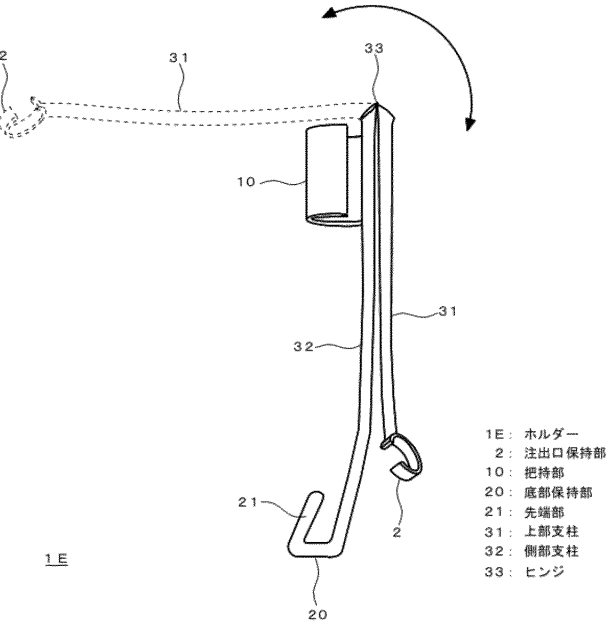
40

50

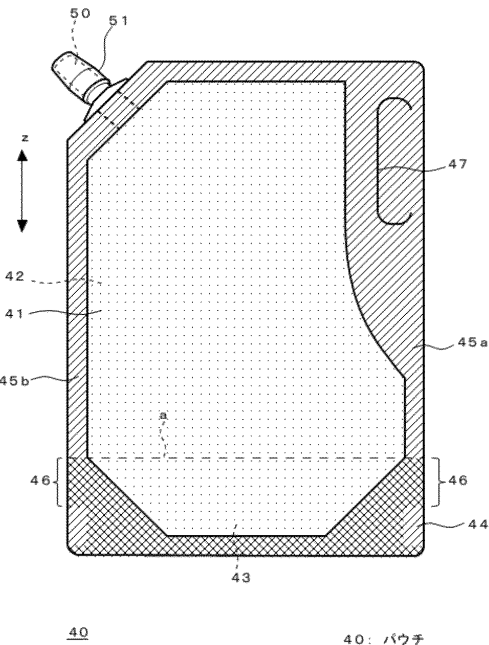
【図 7】



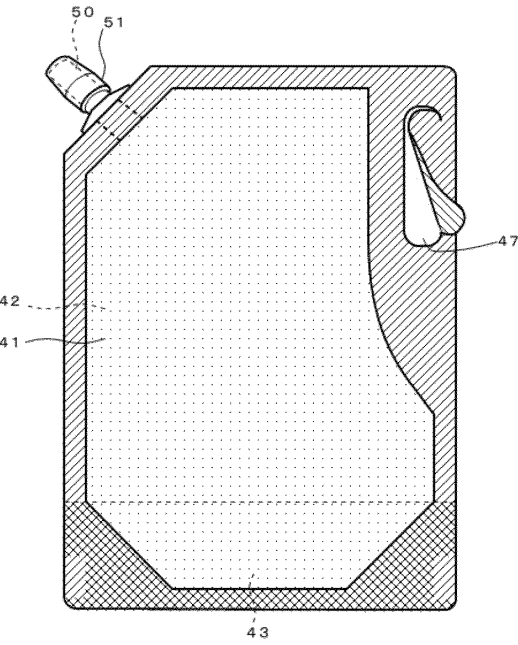
【図 8】



【図 9 A】



【図 9 B】



10

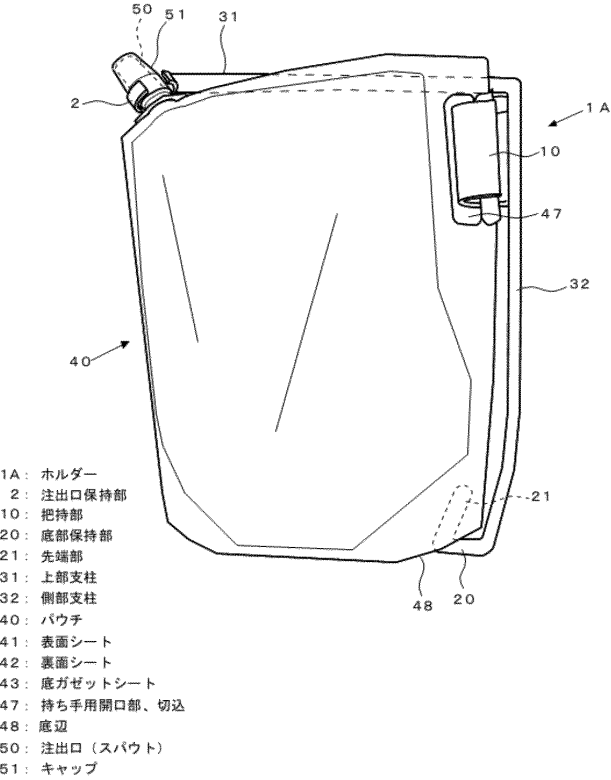
20

30

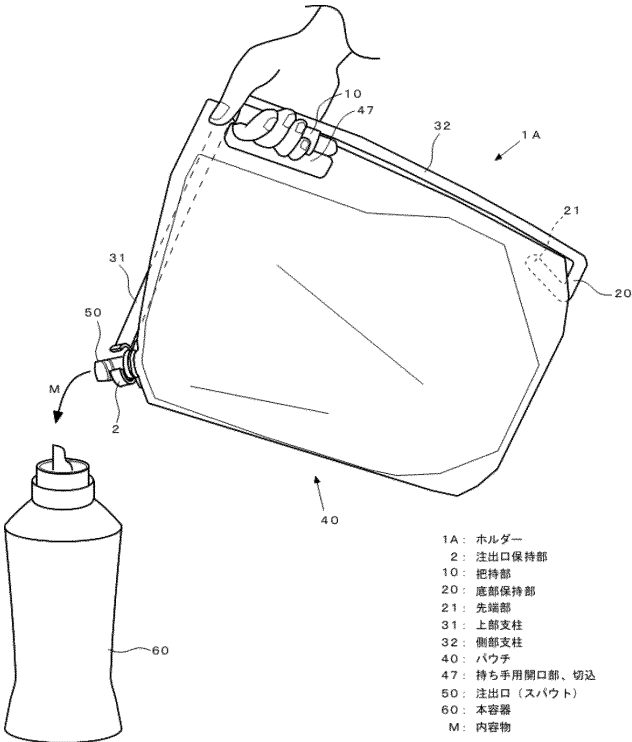
40

50

【図 10】



【図 11】



【図 12】

